

<要旨>

災害発生時の情報収集は必要不可欠であり、今日では、テレビや新聞だけでなく一個人が気軽に発信できるインターネットの普及が加速しており、様々な媒体からの情報収集が可能となった。しかし、利便性が高まったものの誤った情報に惑わされる事や、キーワードが同じでもサイトによって書いてあることが違う為、混乱してしまう事も日常茶飯事になっている。災害時にデマを流すような事例も発生している。メディアリテラシーの重要性を認識している人も多いのではないだろうか。

本研究では、過去の災害発生時におけるテレビ報道と東日本大震災や熊本地震におけるインターネット活用のメリット・デメリットを比較し、今後 70%の確率で 30 年以内に発生されるとされる首都直下型地震に焦点を当て、減災の可能性を高める観点から、情報収集の媒体としてインターネットが主流になった時の影響とテレビ局の担う役割について考察する。